

(社) 日本原子力学会
第 52 回倫理委員会議事要旨

日 時 H22.9.17(金) 9 : 30~12 : 00
場 所 北海道大学工学部 会議室 1 (C 棟 C208 講義室)
出席者 北村委員長、大場副委員長、小川委員、小澤委員、杉本委員、中野委員、
平野委員、弘津委員、藤田理事、山本理事 (10 名、委員名簿順)
萩原氏、中安氏 (傍聴者)

配布資料

- 資料 52-1 第 51 回倫理委員会議事要旨 (案)
- 資料 52-2① 平成 22 年度倫理委員会委員名簿(2010.9.17)
- 資料 52-2② 倫理委員会委員立候補について
- 資料 52-3① 倫理委員会規程類 状況について
- 資料 52-3② 規程 29 倫理委員会規程
- 資料 52-3③ 内規 84 倫理委員会メール審議内規
- 資料 52-3④ 内規 83 倫理委員会運営内規
- 資料 52-4 ケースブック 3 の発刊について
- 資料 52-5 倫理ケースブック 3 発刊の予算外申請書、見積書
- 資料 52-6 研究会および企画セッションの分担について
- 資料 52-7① 2010 年 秋の大会 企画セッション提案書
- 資料 52-7② 中越沖地震発生直後の所員の行動／菅井研自・東京電力
- 資料 52-7③ 中越沖地震後による柏崎刈羽原子力発電所への影響と現状
／平尾克己・東京電力
- 資料 52-7④ 東京電力の復旧対応に対する評価と学会の役割／奈良林直・北海道大学
- 資料 52-7⑤ 企画セッション開催要領
- 資料 52-7⑥ 企画セッション アンケート
- 資料 52-8 2011 年春の年会 企画セッション検討
- 資料 52-9 第 14 回研究会について
- 資料 52-10 10 周年記念企画 倫理規程浸透度調査 計画第 1 次中間報告
- 資料 52-11 第 32 回技術倫理協議会議 報告書
- 資料 52-12 ケースブックの転載・引用許諾について
- 資料 52-13 中国電力殿ヒアリング結果について
- 資料 52-14 中国電力島根原子力発電所の点検不備に関する倫理委員会の対応について
- 資料 52-15 【相談】倫理ケースブックの販売 (11/19 金：日本技術士会における作田様講演)

議事

1. 資料 52-1 により前回議事要旨（案）を確認し、（案）をとることとした。
2. 資料 52-2 により、小川委員の後任として萩原氏を了承し、理事会(10/1)の承認後に正式に委員として就任することになった。
3. 資料 52-3①～④により杉本幹事補佐から規程類の改訂が理事会(7/28)で報告・承認された旨説明があった。規程第 13 条により「委員はやむを得ず欠席する場合、その代理者を指名することができる。代理者は委員と同じ権利を有する」ことに注意が喚起された。
4. 資料 52-4 により大場副委員長からケースブック 3 の発刊について説明があり、販売を促進するため、各委員の所属/関係する機関での購入数、送付先、請求先等を 9 月末日までに大場副委員長へ連絡することとした。
5. 資料 52-5 により小川委員から平成 22 年度倫理ケースブック 3 発刊に関する予算外申請書、見積書について説明があり、了承した。
6. 資料 52-6 により杉本幹事補佐から研究会および企画セッションの分担について説明があった。平成 23 年 11 月の第 16 回研究会の主担当を萩原新委員とすることとした。
7. 資料 52-7①～⑥により小川委員から 2010 年秋の大会企画セッション（本日午後）について説明があった。各講演者に時間厳守をお願いすることとした。
8. 資料 52-8 により中野委員から 2011 年春の年会、企画セッションの検討状況について説明があった。「説明責任を果たすとは」をメインテーマとして、例えば、一般の人に説明責任がどこまで認識されているかなど、複数の題材で構成する方向で大場副委員長、中野委員、杉本幹事補佐らが相談して企画セッション案を作成することとした。
9. 資料 52-9 により小澤委員及び中安先生（福井工業大学）から第 14 回研究会について説明があった。11 月 17 日(水)午後に福井工大で研究会を開催することとした。倫理研究会を福井工大の支援プログラムとして、福井工大の学生を中心とした研究会を行うことにより、福井工大から旅費等の負担をお願いすることとした。委任状等の手続きは、小澤委員がとりまとめることとした。
10. 資料 52-10 により平野委員から 10 周年記念企画として、倫理規程浸透度調査計画について説明があった。原則的に原子力学会会員全員を対象として、学会の Web アンケートやニュース配信システム等を利用して、アンケート調査を実施する方向で検討を進めることとした。
11. 資料 52-11 により平野委員から技術倫理協議会の活動状況の報告があった。「研究者（者）倫理」をテーマとする 2010 年シンポジウムへの大学の事例紹介等の協力要請については、原子力学会からの推薦は難しいことを再度連絡することとした。共催に原子力学会の名前を記載する件は、部会等運営委員会の了承を得て返答することとした。
12. 資料 52-12 により大場副委員長からケースブックの転載・引用許諾について説明があり、了承した。
13. 資料 52-13 により大場副委員長から中国電力のヒアリング結果について説明があ

った。安全上問題なしといえども社会はそれを認めないことから、社会の求めていることが守れていなかったこと等に課題があると報告された。

14. 資料 52-14 により大場副委員長から中国電力への今後の対応に関する提案について説明があった。その結果、中国電力に対し委員会としての見解を出す方向で進めることとした。大場副委員長がたたき台となる文章を作成し、以後はメール討議することとした。

15. その他の案件として、以下の議論があった。

- ・資料 52-15 により中野委員から、日本技術士会における作田幹事講演（11/19）時の倫理ケースブックの販売について提案があった。ケースブック 3 は 1,000 円、2 と 3 のセットは 1,500 円、1～3 のセットは 2,000 円で販売することとした。

- ・山本理事から 2011 年 5 月 16～19 日に幕張で開催される ICONE19 における技術者倫理に関するセッションについて説明され、杉本委員がセッション・オーガナイザーを務めることとした。

16. 次回倫理委員会は、研究会の開催に合わせ、11 月 17 日(水)午前に福井工業大学において開催することとした。

以上